

事業群評価調書(令和2年度実施)

基本戦略名	9 快適で安心・安全な暮らしをつくる	事業群主管所属	県民生活環境部地域環境課
施策名	(5) 良好で快適な環境づくりの推進	課(室)長名	重野 哲
事業群名	② 大村湾・諫早湾干拓調整池の水質改善	事業群関係課(室)	諫早湾干拓課、水環境対策課
基本戦略名	9 快適で安心・安全な暮らしをつくる	事業群主管所属	県民生活環境部地域環境課
施策名	(7) 人と自然が共生する地域づくり	課(室)長名	重野 哲
事業群名	④ 大村湾周辺地域の里海づくり	事業群関係課(室)	県民生活環境課、自然環境課

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)</p> <p>9-(5)-② 閉鎖性の強い海域である大村湾の環境保全と水産資源の回復を図るため、下水道施設の高度処理化や貧酸素水塊※対策に取り組みます。また、諫早湾干拓調整池の水質改善のため、流入負荷削減対策など、国、県、市の関係機関で連携して取り組みます。</p> <p>9-(7)-④ 変化に富んだ独特な景観を持つ、日本有数の閉鎖性海域である大村湾の魅力を活かすため、多様な生物が数多く生息することができる豊かな海づくりを進めるとともに、海の恵みを持続的に活用できる地域づくりに取り組みます。</p> <p>※貧酸素水塊:主として夏場に海底部で発生する酸素濃度が極端に低い水の塊</p>	<p>(取組項目)</p> <p>i) 生物を活用した大村湾や諫早湾干拓調整池の水質浄化の取組(事業群9-(5)-②、9-(7)-④) ii) 大村湾流域別下水道整備総合計画に基づく下水道施設の高度処理化の推進(事業群9-(5)-②) iii) 希少野生動物種保存地域の指定(事業群9-(7)-④)</p>
--	---

事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	9-(5)-② 大村湾の水質 (COD※75%値平均) ※COD(化学的酸素要求量)の略。海域、湖沼の水の有機汚濁物質等による汚れの度合いを示す指標。	目標値①	2.5mg/L (H26)	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L (R2)	
	実績値②	2.1mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	進捗状況		
	達成率②/①	80%	100%	80%	100%	100%	100%	順調		
9-(5)-② 諫早湾干拓調整池の水質 (COD 75%値平均)	目標値①	7.9mg/L (H26)	—	—	—	—	5.0mg/L	5.0mg/L (R2)	9-(7)-④ 平成28年度に大村市森園公園地先、平成30年度に時津町崎野自然公園地先に造成した再生砂による浅場は、前年度より多くの二枚貝の生息が確認された。また、二枚貝を含む底生生物全般においても造成前と比較して多くの種類が確認されるなど、生物の生息の場となりつつある。	
	実績値②	7.4mg/L	7.4mg/L	7.4mg/L	8.4mg/L	8.6mg/L	8.6mg/L	進捗状況		
	達成率②/①	—	—	—	—	—	—	—		
9-(7)-④ 大村湾沿岸に再生砂で造成する浅場に生息が見込まれる二枚貝の個体数	目標値①	0個体	0個体	80万個体	80万個体	160万個体	160万個体	160万個体 (R2)	9-(7)-④ 平成28年度に大村市森園公園地先、平成30年度に時津町崎野自然公園地先に造成した再生砂による浅場は、前年度より多くの二枚貝の生息が確認された。また、二枚貝を含む底生生物全般においても造成前と比較して多くの種類が確認されるなど、生物の生息の場となりつつある。	
	実績値②	0個体 (H26)	—	185万個体	22万個体	1,559万個体	1,559万個体	進捗状況		
	達成率②/①	—	—	231%	27%	974%	974%	順調		

2. 令和元年度取組実績(令和2年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 令和元年度事業の実施状況 (令和2年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和元年度事業の成果等	中核事業	
				H30実績	うち 一般財源	人件費 (参考)			主な指標	H30目標	H30実績			達成率
				R元実績						R元目標	R元実績			
R2計画	R2目標	R2実績												
1		「いさかん」水辺の保全と活用加速化プロジェクト事業 地域環境課	R元-3				諫早湾干拓調整池 諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造を図るため、諫早湾干拓調整池中央干陸地における利活用に係る基礎調査、環境学習などを実施した。	活動指標	ヨシの刈り取り面積(ha)				●事業の成果 ・中央干陸地で事業者によるヨシの刈り取りが行われた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・関係機関、関係者が連携し、一体となって取組を実施することにより、調整池の水質目標達成に寄与する。	○
				1,108	938	7,954		成果指標	諫早湾干拓調整池の水質(COD75%値平均)(mg/L)					
				2,356	1,603	7,975	根拠法令	諫早湾干拓調整池水辺環境保全と創造のための行動計画						
2		みらいにつなぐ大村湾事業 地域環境課	R元-3				大村湾流域 大村湾の環境改善や沿岸を含む地域活性化を図るため、造成済みの浅場を活用した環境学習、関係団体と連携し大村湾内の浮遊ごみの除去などを実施した。	活動指標	大村湾体験活動実施回数(回)				●事業の成果 ・造成済みの浅場を活用した小学生親子等を対象とする大村湾体験活動を通じて、水質保全の必要性に関する啓発等を行った。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・沿岸域の住民や協力機関を交えながら浅場維持・管理を行うことにより、親水意識醸成を図るとともに水質目標達成に寄与する。	
				8,291	5,967	7,954		成果指標	大村湾の水質(COD75%値平均)(mg/L)					
				6,841	5,354	7,975	根拠法令	環境基本法、水質汚濁防止法、大村湾環境保全・活性化行動計画						
3	取組項目1	諫早湾干拓調整池水辺空間づくり事業 地域環境課	H25-				「第2期諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画」(R元8月から「第3期諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画」へ移行)を推進するため、各種事業の進捗管理や各種イベント等に参加し、水質保全の必要性を説明した。	活動指標	諫早湾干拓調整池の参加者数(人)	3000	3200	106%	●事業の成果 ・地域の住民等に対し、調整池の恒久的な水質保全と水辺空間づくりの必要性に関する啓発等を行った。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・関係機関、関係者が連携し、一体となって取組を実施することにより、調整池の水質目標達成に寄与する。	
				2,280	221	6,363		成果指標	諫早湾干拓調整池の水質(COD mg/L)					
				5,548	584	6,380	根拠法令	水質汚濁防止法、環境基本法						
4		調整池及び流入河川における淡水二枚貝類の生息場拡大手法の開発に関する研究(研究) 県民生活環境課	H30-R2				諫早湾干拓調整池 諫早湾干拓調整池および流入河川において、淡水二枚貝の生残率を高めるとともに、生息場を広げる手法について検討した。	活動指標	生息場造成実験水路数(地点)	2	2	100%	●事業の成果 ・市販のコンクリート平板などを利用した簡易な二枚貝生息場造成手法は、複数の用水路で造成効果を確認することができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・水質浄化能力を持つ二枚貝を増やすことにより、調整池の水質改善の一助となると考えられる。	
				2,123	2,123	11,958		成果指標	マシジミ生息数(個体数/m <sup>2</sup> ) ※月1回調査の年平均値(上段:水路別、下段括弧内:全体)					
				1,727	1,727	11,931	根拠法令	—						
				2,293	2,293	11,962	根拠法令	—						
5		諫早湾周辺地域環境保全型農業推進事業 諫早湾干拓課	H25-R4				諫早湾干拓調整池 諫早湾周辺地域において、肥料使用量削減等の環境保全型農業による現地実証を行い、環境に優しい農業の推進を図った。	活動指標	国、関係機関との事業打合せ(回)	3	3	100%	●事業の成果 ・キャベツ、ブロッコリー等の減肥技術試験圃の設置、研修会における周知、啓発チラシの配布を行い、環境に優しい農業推進を図った。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・諫早湾干拓調整池の水質改善のため、浅水代かきや土壌流出防止に向けたカバークロープ推進に取組んだ。	
				7,829	0	—		成果指標	啓発活動等の実施(現地実証・研修会・チラシ作成)(回)					
				7,807	0	—	根拠法令	—						
				8,500	0	—	根拠法令	—						

6	取組項目 ii	(企)大村湾南部流域下水道事業	H5-R12	292,443	0	—	大村湾流域	大村湾南部流域下水道事業については、下水道の普及が一定進んでいるので、水処理施設の高度処理化にウエイトを置いて事業を推進している。なお、事業の推進のためには、流域関連市との連携が必要であることから、議論を進めていく場として協議会を設けている。 令和元年度は大村湾南部浄化センターの水処理施設を高度処理化する工事を進めるとともに、ストックマネジメント計画に基づき、浄化センター内の中央監視装置の改築更新を行う工事の進捗を図った。	活動指標	協議会等開催回数(回)	5	5	100%	●事業の成果 ・高度処理化工事及び中央監視装置改築更新工事の進捗を図り、高度処理化工事については、一部運転を開始した。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・高度処理化工事を推進することにより、大村湾の水質改善に寄与する。	○
				757,142	0	—				5	5	100%			
				435,678	0	—				100	100	100%			
	水環境対策課	根拠法令	下水道法	放流水質の遵守基準の達成率(%)	100	100	100%								
100				100	100%										
7	取組項目 iii	希少野生動植物保全事業費	—	1,285	1,285	7,972	一般県民	レッドリスト掲載種のモニタリング調査を実施するとともに、保護が必要な野生動植物の捕獲・採取等を規制する地域指定を行った。	活動指標	希少野生動植物保全事業検討会の開催(回)	2	2	100%	●事業の成果 ・専門家による会議を2回実施し、希少種の保全等を検討した。植物2種、魚類1種、貝類1種について、その捕獲・採取を規制する保存地域を指定し保護の充実を図った。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・保存地域の指定により、生物多様性保全に資する希少な野生動植物の保全が図られた。	○
				1,060	1,060	5,568				2	2	100%			
				1,791	1,791	5,583				1	1	100%			
	自然環境課	根拠法令	長崎県未来につながる環境を守り育てる条例	自然環境保全地域等指定数(件)	1	1	100%								
1				1	100%										

### 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	<p>生物を活用した大村湾や諫早湾干拓調整池の水質浄化の取組</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 (大村湾関係) 生物の生息環境の場を確保することを目的として造成した浅場には、鳥やエイ等の捕食跡や二枚貝の幼生の生息が確認されており、生物の生息の場となりつつある。一方で、気象状況により、個体数が大きく変動することも考えられることから、アサリ等の生物が安定的に定着できるかどうかを検証する必要がある。 沿岸域では護岸工事などで安全性が高まった一方、海と触れ合う機会が減少しており、流域住民が日々の暮らして大村湾のつながりを意識し、大村湾を宝の海として将来へ受け継いでいくためには、人々の親水意識の向上が不可欠である。 (諫早湾干拓調整池関係) 水質保全目標を達成していない要因として、水温の上昇、流域からの生活排水や施肥・農業使用に伴う面源由来の汚濁負荷など複数の要因が存在する。 簡易な二枚貝生息場造成手法については、複数の用水路で造成効果を確認することができたことから、他の水路への拡大を検討すること必要がある。 行動計画に掲げる各種の対策を着実に実行する必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 (大村湾関係) 造成した浅場の利活用及び維持・管理を、関係団体と協力し、流域住民を交えて実施していくとともに、生物の生息状況の検証を行う。 流域住民の親水意識向上を図るため、住民参加型で沿岸域の生き物調査を行い、大村湾における海域の生物調査マニュアルを作成していく。 (諫早湾干拓調整池関係) 令和元年8月に策定した第3期諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画に基づき、第2期行動計画の施策に浅水域の波浪低減対策、農業用沈砂池の機能回復などの対策を加え、引き続き関係機関一体となって、各種施策を進めていく。 実験水路での研究により得られた簡易な二枚貝類の生息場造成手法について、関係機関と連携し他の水路への活用を検討していく。 行動計画に掲げる各種の対策を着実に実行するよう推進するとともに、新たな追加対策についても検討を進めていく。</p>
ii	<p>下水道施設の高度処理化の推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 大村湾流域での下水道等の普及は一定進んでいるので、高度処理化にウエイトを置いて事業を推進している。国からの交付金を確保し、引き続き事業の進捗を図る必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 交付金の確保について、引き続き要望等を行っていく。</p>
iii	<p>希少野生動植物種保存地域の指定</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 希少種においては、専門家による県レッドリスト掲載種の現地調査を行い、生息・生育状況や捕獲採取圧等にかかる基礎データの収集を進めることができたが、離島や半島、複雑な海岸線等変化に富んだ県土を十分に調査するまでには至っていない。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 生物多様性保全を進めるに当たり、現状や変化を的確に把握するための基礎データの収集は重要であり、現在見直し作業を進めている次期県生物多様性保全戦略(令和3年度～)においても重点項目として位置付け、モニタリングの実施強化が必要である。</p>

#### 4. 令和2年度見直し内容及び令和3年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	令和2年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和2年度の新たな取組は「R2新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	令和3年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1		「いさかん」水辺の保全と活用加速化プロジェクト事業 地域環境課	既存の生物調査結果を精査し、中央干陸地のヨシの適正管理・活用等の事業について、国や関係機関と連携して取り組む。	③⑤⑦	中央干陸地の適正管理や再生可能エネルギーの導入手法等について、関係機関と連携して取り組むとともに、引き続き調整池・中央干陸地における環境学習を実施する。	改善
2	取組項目 i	みらいにつなぐ大村湾事業 地域環境課	流域住民参加型で沿岸域の生き物調査を行い、大村湾における生物調査マニュアル作成のための情報を収集する。	③⑤⑦	造成浅場のモニタリング調査を継続して実施するとともに、沿岸域生き物調査で得たデータを踏まえて大村湾生物調査マニュアルを作成する。	改善
3		諫早湾干拓調整池水辺空間づくり事業 地域環境課	諫早湾干拓調整池は、環境基準を超過しており水質改善に至っていない状況にあることから、効果的な調整池の水質改善対策について、関係機関と協議を進めていく。	③⑤⑦	諫早湾の水質改善のためには、関係機関が一体となって取り組む必要があり、第3期諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画に掲げる各種の対策を推進するとともに、九州農政局等関係機関と連携して追加対策についても検討を進めていく。	改善
7	取組項目 iii	希少野生動物植物保全事業費 自然環境課	本県に生息・生育する希少野生動物植物種へ影響を及ぼすおそれのある外来生物等について、リスト公表やパンフレットのHP掲載による県民や地元関係団体への周知を行い、早期発見・防除の重要性の浸透を図るとともに、レッドリスト改訂に向けモニタリング手法等の検討を専門家の意見を聞き引き続き進める。	②⑥	専門家による希少野生動物植物種モニタリングを実施するとともに過年度モニタリングデータを整理し、生物多様性保全戦略の着実な遂行のための基盤となるレッドリストを改訂するとともに、生物多様性情報見える化事業と連携し当該リストをHPで公表することにより県民への生物多様性保全への理解度を深め、もって県民の多様な主体による保全活動等への参画向上につなげていく。	改善

注:「2. 令和元年度取組実績」に記載している事業のうち、令和元年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

#### 【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点